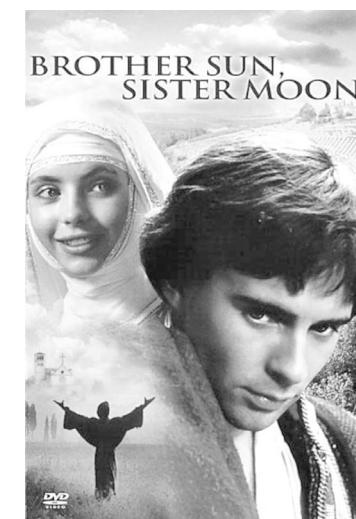




り監督による1972年の伊英
リフです。「ひょっとして、
お前は聖職になりたいのか?」
「日本語に訳すとこうい
う大きなテーマが流れており、
神学生や聖職を志す人にはぜひ
観てもらいたい作品です。」

この問いに対しても、「
いいえ、わたしはまだ小
鳥のように神の恵みを賛美
しながら自由に生きたいの
です」と答え、人間の富

この映画をご存知の方は少な
いかも知れませんが、これはアッ
シジの聖フランチエスコの半生
を描いた、フランコ・ゼフェレッ
ト合作で、当時世界中でヒットし
た名作です。



かといって何もしない
のも問題です。一度後輩
聖職に言われたことがあります。「もしあの時に
智さんがもうひと声かけて
くれたら、回り道しなくてすんだのに…」彼
はここぞという時に背中
を押してほしかったと言
うのです。まことに申し訳なかっ
たです。当時のわたしは若気の
いたりよろしく、お前の信仰の
問題だとばかりに、突き放して
いたように思います。

聖職に召される人が 増し加わるための祈り

「全能の神よ、み子の尊い血
によって購われたこの世を顧み、
主の公会の聖職に召される人を
増し加えてください。また、そ
の働きによって福音の光を輝か
せ、救われる者の数を増し、速
やかにみ国が来ることを待ち望
ませてください。主イエス・キ
リストによってお願いいたしま
す。アーメン」

今、神戸教区は他教区と比べ
て聖職志願者が多いほうだと思
いますが、それでもまだまだ無
牧の教会が多く、先日行われた
宣教協議会でも、「早く定住牧
師を派遣してほしい」との、信

たしの父も、わたしに対して
とは決して申しませんが、「聖
職を志すなら応援するよ!」と
言えるようになります。わたしの
父も、わたしに対しても、「お前は聖職になれ!」と

聖職に召される人が 増し加わるため

"Are you seeking Holy
Order?"

司祭 バジル 八代 智

や名声を求めず、小鳥のように
無垢で、かつキリストのように
貧しく生きる決意をするのです。
この映画をわたしが始めて見
たのは高校3年の夏で、非常に
感動したのを今でもよく覚えて
います。この映画の初めから終
わりまで神の召命（その人を用
いて教会に連れて行き、司教
に裁いてもらおうとする場
面があるのですが、その時
アッシジの司教がフランチエ
スコに尋ねたのが冒頭のセ

とはいえ、ことは聖職志願、
つまり神の召命に関わることだ
けに、「お前も聖職になれ!」
と安易には言えません。本人が
深い祈りを通して神の御心を思
い、召命感がその人の心の中に
充満してはじめて聖職志願がな
されるので、神とその人の関係
性の中に他人が容易に足を踏み
入れることは慎まなくてはなら
ないのです。

それだけに周りの信徒や先輩
の聖職の祈りと応援がとても必要
なのです。これからも聖職に召
される人が増し加わるために祈
りつつ、神学生や志願者の歩み
を精一杯応援して参りましょう。
されど、それがその第1歩を踏み出す
ことさえできません。

徒の切実な願いが述べられて
ました。聖職養成委員の一人と
して、この願いが深く心に響き、
あらためて聖職志願者を増やさ
ねばとの思いに駆られた次第で
す。

聖職を志願するということは、
本人のものすごい意思と決断と
祈りを必要とします。とくに世
間一般の就職活動と違って、明
らかに貧乏生活を余儀なくされ
るわけですから、相当な勇気が
なければその第1歩を踏み出す
ことさえできません。

「お前は聖職になれ」とは、一
度たりとも言つたことがあります。
せん。その代わり早晚祷の中で、
よく文語祈祷書の「聖職に召さ
れる人の増さんため」の祈りを
しておりました。

2011年
9月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk.org/kobe/>
発行責任者
司祭 芳我秀一
印刷所
文明堂印刷所

広島平和礼拝2011報告

広報部 執事 イサク 坪井 智

特に今回は、世界平和記念聖堂（カトリック轍町教会）の見学ツアーモ用意されました。同聖堂には、平和を願い求める世界の国々から寄贈された記念品が沢山展示されています。それらの見学に加え、鐘楼から広島市の街地も眺めました。

午後からは、第一回目の平和礼拝で証言してくださった佐伯啓子さんに、再び被爆体験を語って頂きました。女学生の時に被爆した彼女は、楽しいことやうれしいことに満ちている青春時代が、戦争一色であったこと、勉強もそっちのけで軍需産業に従事させられたこと、そして、まだよく世間がわかつていなかつた頃だから、楽しいことを見つけ考へ前向きに生きようとしていたと語られました。声をつまらせつつ語ってくださる佐伯さんの姿に、思い出すのが辛い、話すのを避けていたと語る地震被災者の姿がダブりました。苦しみを受けた人にとっては、66

が、供養塔や韓国人慰霊碑を慰靈碑への献水の奉仕を担当しました。ここからカトリック大聖堂までの平和行進は、聖公会だけで約150名に近い人数を数えました。また大聖堂でのカトリック・聖公会合同の平和祈願ミサでは、聖公会の青年も聖書朗読や代祷を担当しました。

二日目は、8時から広島復活教会で、原爆犠牲者追悼聖餐式説教で行いました。三鍋主教は説教の中で自らの生い立ちに触れつつ、被害者と加害者の両方である事実を受け止めたい、未だ平和ではなく、戦争は無くな



8月5日（金）午後、広島復活教会にて、同教会信徒の佐伯啓子姉から被曝体験をお聞きしました。

特に今回は、世界平和記念聖堂（カトリック幟町教会）の見学ツアーモ用意されました。同聖堂には、平和を願い求める世界の国々から寄贈された記念品が沢山展示されています。それらの見学に加え、鐘楼から広島市の街地も眺めました。

の配慮と努力をいつもしていかなければならぬと再認識しま

る現実、原爆被爆者を切り捨ててきた構図と原発被害者への対応が似てること、そして自分たちのライフスタイルを変更すべきである等の感想を述べられました。人間がコントロールできない、そして何年にもわたつて被害を与えていく原発問題にも、平和を求める観点から心を傾けなくてはいけないと感じました。

らないが、私たちは無力ではない、祈り、行いの中から平和求める姿勢を示したいと語られま

広島／長崎
巡礼の旅

宣教部青年担当 司祭 ダビデ 林 和広

8月5日(金)～6日(土)の広島平和礼拝及び8月9日(火)の長崎平和礼拝に青年4名と共に参加しました。それぞれの青年達が原爆投下された広島、長崎という場所に自らが足を運び、体験談を聴き、目で見る事を通して、平和について思索したことだと思います。参加者の一人、呉信愛教会信徒の山本風太兄に報告して頂きました。

広島・長崎平和礼拝に
参加して

世代の人にとっては、非常に貴重な体験になると思います。
しかし、被爆された方々にとつて8月6日、9日という日は、
思い出したくない日を思い出してしまった辛い日になります。そ
の辛さを乗り越えて、当時のことを話してください方は本当に
心の強い方であると感じました。
そして、僕たちは聞いたことをさらに多くの人に伝えていく

廣島・長崎平和礼拝に
参加して
トマス 山本 風太

今回、広島と長崎の平和プロ
グラムに参加して、僕自身の
「平和」に対する考えがさらには
深まりました。実際に被爆地を
訪れて被爆した方々の話を聞く
ことは、当時のことを知らない

役目が与えられています。平和を伝えると、いうのは難しいことかもしれません、みんなで平和について話し合うことも平和を伝えていることになると思います。

3月9日(火)長崎平和公園へ神戸松蔭女子学院大学で折られた千羽鶴を届けた。右から3番目が山本兄。



8月9日(火)長崎平和公園へ神戸松蔭女子学院大学で折られた千羽鶴を届けた。右から3番目が川本兄。

「平和」とは「心が満たされている状態」だと僕は考えます。これには人との繋がりが関わっていて、今回のプログラムでもたくさんのお客様の「平和」を感じることができました。これから自分にできることを探して「平和」を伝えていきたいと思います。

(学)八代学院のご紹介

神戸国際大学付属高等学校

教務部長 アブラハム 片山 豊

本校は、日本聖公会のキリスト教の精神を土台とし、八代斌助主教が、垂水の地に国際社会育成するために、一九六三年に祈りを込めて創設されました。

「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」を建学の精神とし、常に人としてどうあるべきかを問い合わせる教育を開設して参りました。二〇一三年に創立五十周年を迎える今、本校では、八代教育の原点に立ち戻り、混沌とした昨今の教育界に一石を投じるため、様々な取り組みを試みております。

本校に集う一〇〇〇名の生徒と教職員が、聖歌の流れる中で、聖書の朗読とチャーチのお祈りで、求道者としての一日を始めます。

宗教的倫理観をないがしろにしてきた戦後教育が荒廃していく中、本校は創立当初からその姿勢を崩すことなく、貫いて参りました。



ヒロシマ平和旅考

としての「学び」ではなく、「学び」そのものを「目的」とした教育の実現に力を注いでおります。

今年から開設した、アスリー

トコースや文理特進コースにおいても、単なるアスリートや進学エリートの輩出をその目的とはしておらず、主の御心にかなう、眞のアスリート、眞のリーダーシップを發揮できるエリートの育成を目指しております。

そのためには、地域社会や教会から遊離することなく、太いパイプで繋がっておくことは、重要な条件の一つです。

特に、精神的支柱となつていただいている教会や信徒の皆様との良好な関係は不可欠となります。今後も教会と共に歩んで

本校では、信徒の方のための「キリスト教特別推薦入学制度」があります。是非ご利用ください。また11月5日(土)にはオーブンキャンパスを開催いたしますので、皆様方の目で本校の成長を確かめていただければと考えております。

神戸国際大学
キリスト教センター課長
クレメント 上松 裕明

本学で学ぶことは、専門的な知識を身につけ、就活に有利になるような資格をとることだけではなく、支え合い、ともに生きることの大切さと豊かさを実感することであつてほしいと願っています。建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」は、共通的に生きる全人格的成长の指標であることを、八代斌助主教はわたくしたちに伝えたかったにちがいありません。

その建学の精神がわたくしたち一人ひとりのものとなりますように、「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」というスピリットを、自分の人生にむき合い、隣

いける学び舎として精進いたしますので、是非とも信徒の皆様には本校のよき理解者となつていただき、いつまでも暖かい眼差しで応援していただければこの上ない幸いです。



フィリピン・ボランティア実習

合同研修会「ヒロシマ平和旅考」を実施し、神戸教区「広島平和

期」を企画・実施しています。前期における「春のチャペル・ウイーク」は、1年次生の大学基礎論クラスでチャペルを訪問していただき、ともに祈り、建学の精神を主題に学び合っています。後期における「秋のチャペル・ウイーク」は、キリスト教関係科目のチャペルでの授業とオルガン演奏による「音楽との対話とチャペル講座」として開講し、チャペルでの時間をわかつ合っています。

また人生のうちで何回もめぐつてくるものではない夏休みは、開講し、チャペルでの時間をわかつ合っています。

ここから「平和」を祈り、祈りのうちに交わりが深められ、開講し、チャペルでの時間をわかつ合っています。

「いのちと平和」について学び合います。このうちには、神戸教区「ヒロシマ平和旅考」の詳細は、どうぞお問い合わせください。
※教会推薦入学の詳細は、どうぞお気軽にキリスト教センターにお問い合わせください。



フィリピン・ボランティア実習

「礼拝」に参加しています。

また経済学部「サービス・ラーニング」(後期2単位)を主管しています。これは後期に講義とボランティア活動による事前授業をふまえて、フィリピン・ボランティア実習として実施され、トリニティ大学で英語とフィリピンの社会や文化を学び、トリニティ大学の学生や教職員との交流を中心とするフィールド・スタディでは、ラグナ州リリウブを訪ね、地域の人びとの交流を体験するというものです。

「ヒロシマ平和旅考」もサービス・ラーニングとしての「フィリピン・ボランティア実習」も、サビリ・ラーニングとしての「フィリピン・ボランティア実習」も、



6月30日(木) 10:30、京阪神3教区及び北関東教区などの関係者が集い、感謝式を行った。

日立聖アンデレ教会
ボランティアセンター
閉鎖にあたつての
感謝式

東日本大震災被災者救援のため、京阪神聖公会3教区が協働し、また施設開放を快諾して下さるなど、北関東教区及び日立聖アンデレ教会牧師・信徒の方々の多大な支援を頂いて設立された日立ボランティアセンターは、当初の予定通り、その活動を6月30日(木)午前10時30分の感謝式(聖餐式)をもって終了し、拠点を、いわき市小名浜聖テモテ教会に移すことになりました。

7月1日（金）～31日（日）
担当者：塔田光俊兄。

8月1日（月）
瀬山会治司祭、担当着任。

8月2日（火）～6日（土）
ボランティア活動の情報収集、
小名浜聖テモテ教会の礼拝にて主日説教。

8月8日（月）

8月7日（金）

8月9日（火）～12日（金）
センター Prelab 宿舎用地の
整地。
工事。
セントラープレハブ宿舎の設置

小名浜聖テモテ教会 ボランティアセンタ 立上準備報告

治同祭報告抜粹

坪井 智執事、担当着任
瀬山会治司祭と交代。

東北教区小名浜聖テモテ教会及び付属聖テモテ幼稚園、郡山聖ペテロ聖パウロ教会及びセントポール幼稚園への支援（園庭整備、園児へのイベン
トなど）

ボランティアに
参加して

ステパノ 釣田 功

4月に参加したのは、何が何でも救援物資を搬送しなければならないとの強い思いからでし

た。水、ガソリン、食料等を車に積み込み、長田司祭、永野兄と神戸を出発しました。

るの、そこまで頑張るの、と思
わざるを得ない。司祭の器の大
きさを実感したのでした。

被災地に着いての大きな実感は、地震と津波の被害の大きさです。海沿いの一つの町が跡形

もなく、無くなつていた事実。
日も暮れて真っ暗になり、灯り
も何も無いその町で道に迷つた



4月5日(火)仙台にて救援物資搬送前の写真。
4月でも外は氷が張る寒さ。左端が釣田兄。

5月は、日立ボランティアヒンターに参加しました。

その日の午後は、湊中学校へドロの搬出作業。真っ黒なドロを土嚢袋に入れ、校門のところに積み上げました。その時の独特的の臭いは忘れることは出来ません。

翌日、その町の多くの人々の平和な営みはどこに行ってしまったのだろうと思う時、涙が出止まらなかつた。

また陸前高田市へ行つた時は絶句であつた。山間部で津波の大好きな被害を見るとは思つてゐなかつた。海から5 km に離れている地域が壊滅。長田祭、杉野兄、浪花兄、四人と言葉が出なかつた。

さい」と迎えてあげることかも知れません。

6月に再び日立に行つた時、
顔見知りの人が「おかえりなさい」と迎えてくださった。何といふ心地よい響きでしよう。嬉しいものですね。久しぶりに教会に来られた方に「おかえりな

特に重労働とは思わなかつたけれど、初めての人々には過酷だつたろうと思われます。依頼された農家の方は、初対面の私たちに何かと話しかけてこられます。ストレスからか、何かを伝えたいという気持ちが大きいように感じました。足湯をしての傾聴ボランティアも大切な事と実感した次第です。

でした。最初は何も知らない他人同士ですが、一日の作業が終われば、お互い理解しあった仲間同士の感覚は何物にもかえがたい宝物。多くの人々との出会いと貴重な体験が出来ました事に、神様と聖公会ボランティアセンターに心から感謝しております。（神戸聖ペテロ教会信徒）

